

日本のCOVID-19の象徴

年賀状に「気品と情熱ある政治家を待望」と書いた。新年早々不愉快なことをお伝えすることを避けて、抑えに抑えた一節とした。

多くの識者・政治家は言う「桜よりコロナだ」と。COVID-19は世界的な緊急も問題である。はたして「桜」を過去にしているのだろうか。もう一度前安倍政権を見てみよう。

「桜」とコロナは繋がっていることが分かる。

(1)日本のCOVID-19の象徴はアベノマスク

だと私は思う。

多くの人が覚えているのはアベノマスクを着用していた前首相の顔である。朝日新聞社と画家やくみつる氏の了解を得て、挿絵を掲載することができた。(2020年6月24日朝刊) 画家の先見性は驚くべくもので「アベノオワビマスク」と題している。

「桜関連」で2020年12月25日国会で「安倍流の謝罪」をした。しかし国民の75%は納得していない。

その時に着用していたマスクは大きかった。



(2)アベノマスクの効用

憲法、森友・加計等に関心の無かった多くの国民が政治に関心を持ち始めたのはこの「アベノマスク」である。国民を政治に目覚めさせた貢献は大きいと言わねばならない。

このアベノマスクにはゴミやムシが付着して不潔であったことは国民的認知である。

2枚分の素材で3枚作ったために漫画のようにかっこ悪いものになった。役立たないこのマスクに投じられた国家予算はコロコロと変わって多くの国民には知られていない。私も正確なことは分からないが、

①全戸向け（1戸2枚）が1億3000枚で260億円、

②介護施設向け（1人7枚）が1億5700枚で247億円、合計507億円のようなのである。
不潔で回収され再検査に投入された費用8億も入っているらしい。
国民の8割が役に立たなかったと言う。始めから使えないものを作って、国民の目をごまかそうとした政策としか思えない。実際この発案は某官僚の思いつき（冗談のような？）であった。その目眩まし策が失敗に終わって退陣に追い込まれるはめになった。

(3) 煩悩を超える嘘

国民の目が厳しくなり黒川総長問題、桜問題が追及されることになった。
日本人の多くは昔から煩悩は108あると教えられきたが、「桜問題」だけで安倍氏は118回嘘を言ったという。その明細は次の通り。

- ①事務所の関与はないの趣旨で70回
- ②ホテルからの明細書はないで20回
- ③補填はしていないの趣旨で28回

煩悩を上回る虚偽答弁のホームラン王と言われている。そう言われても「それを証明するのは、あなた方だろう」と堂々と反発する。

12月25日衆参両院の議員運営委員会で、その虚偽答弁を彼自身のやり方で詫びた。

国会中継がありTV実況で見ることができた。

立憲民主党の辻元清美議員の質問にどう答えるか興味を持って見守った。

「社長が公の場で嘘を100回以上も重ねたあげく、社員にだまされたという言い訳が通るか。その上、社員だけは詰め腹を切らせ、社長は初心にかえって全力を尽くすなんて言い訳は通らない」

どうやらこの質問は前もって届けられていなかったようだ。ルール違反だと言わんばかりの顔をした安倍氏は、ここでも嘘をつかねばならなかった。

「国民の目から見て、一点の曇りもないように、透明性を確保するため私自身が責任をもって徹底していく」と強調を繰り返す。（強調語は概して出来ていないことの反証である。現首相も同じ）都合の悪いことには、まともに答えない。筋道をそらす名人である。この気風は次の首相にも引き継がれる。

(4) 理性は嘘をつくことができる能力がある。感性は嘘をつけない

殆どの国民は国会中継を見ることはできない。ニュースで断片を見るのがやっとである。新聞が忠実に書いても真実は伝わらない。なぜなら表情が分からないからである。

中継をみていると言葉と表情・しぐさが分かり、その言葉と表情の矛盾が感じとられる。

安倍氏の発言を中継で見ていると「人間はこんなにも嘘がつけるのか」と悲しくなる。

ご本人は「説明責任は果たした。次期総選挙にも立候補して真を問う」という。投票する人が可哀想でならない。

言葉と言葉のつながりで出来ている理性は嘘を付くことができる。しかし、実感は嘘を隠すことはできない。「最善を尽くす」といくら口にしても、必要なことを実行しない。

現首相の冷淡な表情からは具体的な実行政策は見えない。伝統が引き継がれている。

(5)福澤諭吉の人間を見る目

この人を見て矜持ある日本人はいるのかと自問しながら、福澤諭吉の「学問のすすめ」を読んだ。（現代語訳「学問のすすめ」（斉藤孝訳・ちくま新書）
その176頁に「心の棚卸し」に、今に生きる言葉を発見した。

「人間が世の中を渡っていく様子を見てみると、自分で思っているよりも案外悪いことをし、自分で思っているよりも案外愚かなことをし、自分で目指しているよりも案外成功しないものである。

どんな悪人であっても生涯一生懸命悪事だけをやっていこう、と思うものはないだろうが、物事に出会ってふと悪の心が生じて、自分自身でも悪いことだと知っていながらそれを行い、それに色々と身勝手な理由をつけて無理矢理自分を納得させているものがある。あるいは物事をなすにあたっては、決してこれを悪事とは思わず、ちっとも心に恥じる事は無いどころか、本心から良いことをしていると信じて、他人に意見などされればそれを怒ったり恨んだりしていても、年月を経て後から考えてみれば、大いに自分の不行き届きであって、心に恥じることもある」

この文章に「どきっ！」とし、自戒の念を禁じ得ない。その上で118回嘘を言える人間がいることを見抜いている「学問のすすめ」には頭が下がる。最後の文章「年月を経て後から考えてみれば、大いに自分の不行き届きであって、心に恥じることもある」は人間の良心を覚えることと思われるが、一国のトップには「今、ここで」気がついてもらわないと困る。

(5)政権は本当に国民の命と健康な暮らしを考えているのだろうか？

2020年12月下旬の国会に大きなマスクをして「説明責任を果たした」と自認する前首相の発案した小さいマスクは彼の嘘を止めるには余りにも小さすぎたようだ。しかし、彼の野望は大きく総理三選を狙った活動をしているとの報道もある。

東京で1300人を超えた大晦日、医療に従事している人々を俯瞰的にしか見ようとしない現首相の冷淡すぎる表情には「公助」を必要とする人への思いがあるのだろうか？と疑いたくなる。政府発表は「マスク・手洗い・三密をさける」（但し小さいマスクは除く）この括弧ぐらいつけてかっこよくしたらどうだろう。おとなしい国民の支持率も下がったていた折しも1月2日、4都府県の知事が緊急事態宣言の要請をした。菅首相は嫌々な顔をして新型コロナウイルス感染症対策分科会の判断に従った。

宣言を冷酷に読み上げるだけでなく、情熱をもって、心からCOVID-19を収束させたいという心意気を、熱意を見せてもらいたい。よほど力を入れないと過日の言行不一致をカバーすることは出来ないだろう。子供は親を見て育つ。社員は社長を見て育つ。国民は大臣を見て育つ。権力で従わせようと土壇場の私権制限に踏み切ろうとしている。

私権を制限するよりもトップ層の人たちの国民への思い、心情を本物にすることによって、国民の納得を得た協力に訴え謙虚さはない。

問題は山積するばかりである。貧富の差は益々広がっていく。倒産の方向にある多くの中小企業を横目に大企業はプラスの経済成長が来ると信じている。上場株式会社の株式は国家が60%取得して富裕層を守っている。土壇場の私権制限を通すことで憲法に一刺し政権の権力は今以上の独裁色を強めようとしている。コロナ禍は彼らにとって福の神である。

この独裁色にストップをかけられる最後の手は、賢い国民の声であり、選挙における賢い行動である。ここまで染みついた与党支持率を下げるのは容易ではない。しかし、今度の総選挙では与党議委員数を65%以下にしなければならない。

負の遺産を後世に残した私が出来ることが之しかないと考えている。野党連合35%を獲得し「政治と金」の問題を洗い出すこと。人口減に見合った国会議員数にすること。賢い国民が賢い議員を選ぶこと。大臣に癒着した会社が発展する気風をなくすこと。コロナに隠された諸問題（憲法・外交・環境・原子力・赤字国債等）にも目を向けることができる世論を形成しなければならない。

本稿は2021/01/05 23:35現在である。



C.モネ 「印象・日の出」 パリマルモッタン・モネ美術館所蔵